

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成25年9月20日 NO.43

アカツメクサ



心を一つに
ファイト一発

シロツメクサ



赤ガンバレ!

白ガンバレ!

花ちゃん 「今年（ことし）は、ぜったいに赤の勝（か）ちですよー！ベーだ！」

オー君 「え！何言ってるの？おいらたち白の勝ちだよー！ぶーだ！」

モンタ博士 「ちょっと！ちょっとちょっと！ちょっと！またまた何をそんなにけんかしているの。仲良（なかよ）くなかよくしなくてはいけないよ。」

花ちゃん 「だって、オー君が運動会で勝つのは、白組だって言うんだもん。」

オー君 「きまってるじゃん。白はつよいのさ。」

花ちゃん 「ちがいまーす。つよいのはぜったいに赤組です。」

モンタ博士 「まあまあ、ところで、運動会までは、もう少しだから、ぜったいにケガのないように、みんなでなかよく協力（きょうりょく）してやるんだよ。いままでの練習（れんしゅう）の成果（せいこ）を思いきりだしてほしいね。」

花ちゃん 「はい。わかりました。みんなで仲良くがんばります。」

オー君 「はい。わかりました。みんなで協力してがんばります。」

モンタ博士 「ところでさ、いま、野原（のはら）でも赤と白でがんばって競争（きょうそう）している植物があるんだけどな。」

花ちゃん 「えーっ？植物で赤と白のものがあるの？何なんですか。それは？」

オー君 「ひよーっと、おいらたまげた。びっくらこいた。そんなのあるの？」

モンタ博士 「アカツメクサとシロツメクサさ。どちらもよくにているけどね。」

花ちゃん 「モンタ博士、シロツメクサというのは、クローバーのことですね。」

モンタ博士 「その通り、昔（むかし）ね、ガラスとかを外国から持ってくる時に、われな
いように、箱（はこ）の中につめこんだ草だったそうだよ。それで「白つめ
草」さ。シロツメクサもアカツメクサ（ムラサキツメクサともいう）もよく
にているからね、どんなちがいがあるか、しっかりと観察（かんさつ）する
といいね。ちがいがいくつ発見（はっけん）できるかな？」

オー君 「よーし！おいらがんばっちゃうもんね。ちがいを見つければいいんだね。」

花ちゃん 「私は二つの植物の同じところをさがしてみようかしら。」

モンタ博士 「その通りだね。「ちがい」と「おなじ」ところをさがすことこそ、科学（かがく）のはじめの第1歩さ。例えば、チョウは日本に250種いるけど、

250種類（しゅるい）ぜんぶ少しずつちがいがある。でも、チョウという仲間としての同じこと

があるはずなんだ。そのちがいと
同じ所の両方を見つけていくことこそ大切なんだよ。」

花ちゃん 「オー君！いっしょに「ちがい」や「おなじ」を見つ

けながら、仲良く科学していきましょう！」

